様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：２３９０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５４６３５６６

研究課題名（和文）介護施設における看取りケア教育手法の開発およびケアの質評価に向けたプロトコル作成

研究課題名（英文）Development of educational tools and it's evaluation protocol for End-of-Life care in Nursing homes.

研究代表者
原沢　優子（YUKO, HARASAWA）

名古屋市立大学・看護学部・准教授

研究者番号：７０３０３７７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、Webサイト設計手法の一つであるペルソナ手法を応用して、看取りケアの質評価を可能にするプロトコル作成を含んだ介護保険施設における看取りケア教育の手法の開発が目的であった。
結果として、本研究期間を通して1事例の映像教材を制作・配信した。本映像教材は、一人の高齢者が介護保険施設に入所して穏やかに生活する日々から最終的に臨死期を迎えるまでの経過を追ったケアと遺族へのグリーフケアまで幅広い内容を含む多職種対象の教材である。個別学習と施設職員の集団学習が可能であり、看取りの未体験者のシミュレーション学習にも利用できる。今後の看取りケア教育への貢献と発展が期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop an educational tool and its evaluation protocol for End-of-Life care in nursing homes.The educational tool is applying the persona technique which is one of the website designing methods, and it includes protocols in which the quality of end of life care can be assessed.
As a result, we have produced educational video of end of life care DVD. And we provided it as a system of digital distribution for educational video on the web.This educational video provides a learning system throughout the realistic long-term care process simulation for caregivers, nurses, physical therapists, doctors and social workers. And focused not only an elderly person care but also grief care for their family members. Learners can use this educational video individual learning or group learning, and this video can be used for simulation learning of end of life care inexperienced person. This education video can be expected in contribution and development for future care.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：エンドオブライフケア　看取りケア　現任教育　介護保険施設　高齢者ケア

１．研究開始当初の背景

(1)1980 年頃を境に日本人の「死亡場所」は「自宅」から「病院」へと変化したが、介護保険導入後からは「老人ホーム」や「介護老人保健施設」での死が年々増加している。後期高齢者が増加する時代を迎える中で「今後は、長期にわたる介護の延長線上に死の看取りがある」（広井 2008）といわれるようになった。

(2) 介護施設や自宅での死について課題は、次の 3 点に要約できる①人員（特に夜間の看護師配置）の確保、②看取りケア教育の充実、③看取りにかかわるスタッフのメンタルケア（清水 2005、流石 2006、平川 2008）。さらに、ケアの質の評価にも臨床から課題があがっている。

２．研究の目的

（1）看取りや死の話題は繊細でありタブー視される傾向がある。看取りケアの実践教育を行いたいが臨床でそれを実践することは難しい。近年はビジュアル学習が発展しており、特に若い介護職向け教材ではリアリティのあるビジュアル学習が有効だと考える。そこでリアリティのあるシミュレーション学習法の一つとして Web サイト設計手法の一つであるペルソナ手法を看取りケア教育へ取り入れた教材の開発を本研究の目的とした。

（2）介護保険施設での看取りは、ケアの経過が長く、ケアの質的な学習および評価が欠かせない。ケア対象者は高齢者だけでなくその家族にも向けられる必要があり、死後のグリーフケアも介護職員には求められる。さらに多職種が協働で一つのケースにチームで関わるため看取りの質を良くするには多職種協働の教育が組み込まれた教材開発が必要である。そこで、これらの要素を含めた看取りケアの教育手順を看取りの質を保つプロトコルとして作成することを第 2 の目的とした。

３．研究の方法

（1）教材シナリオの作成

Web サイト設計手法の一つとして Steve Mulder,Ziv Yaar（2007）が説明したペルソナ手法を参考にした。看取りにおいて、高齢者がどのような人生の最後を望むのか、家族がどのように動くのか、ケアスタッフは各職種でどのような行動を取る傾向にあるのかという動的ストリーを盛り込んだシナリオ作成を行った。ペルソナ作成は典型例を示す必要があり、関連のある介護保険施設職員から看取り時のインタビューを行い、看取り時に各職種が何を思い行動するかをシナリオに導入した。また、本人、家族は、どのような行動・言動を見せるかについてもインタビュー結果をシナリオへ反映した。

（2）教育映像の作成

教育映像制作を行う専門家に依頼をした。映像制作は、健康シネマ会に依頼し、計 15 名の撮影スタッフと 11 名の俳優、特養の入居者のボランティア参加を得た。撮影の進行マネジメントは、(株)ユピアに依頼した。撮影場所は、社会福祉法人　福祉楽団　杜の家やしおの協力を得た。研究者が作成したシナリオを監督が脚本化したのち、俳優が実演した。シナリオから脚本化の過程では何回も打ち合わせを行い、映像としての見え方、見せ方と教育的視点の導入について修正を繰り返した。撮影時は研究者が同行し、俳優への細かな演技指導と撮影時の教育的見せ方を調整した。撮影は、特別養護老人ホームの施設内を 2 日間借りて行った。映像の編集までをシネマ健康会が行い、映像の DVD 化は、見積もりが最も安価であった(株)ユピアに依頼した。映像の web 配信システムの構築は、(株)アプライドに依頼した。

（3）制作期間

制作期間：平成 25 年～平成 28 年 3 月末
撮影日：平成 28 年 7 月 23-24 日

４．研究成果

（1）ペルソナ作成

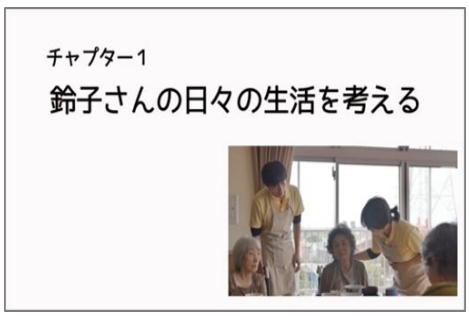
場面：在宅看取りには様々なケースがあるが、典型例として、超高齢者の老衰死を取り上げた。平穏な家族関係、問題の少ない入居者という設定で平穏時から臨終期、看取り後までの期間を一連のエンドオブライフケアとして導入した。

状況設定：鈴子さん、94 歳の高齢者(女性)は配偶者を亡くして自宅で長男夫婦と過ごしていたが認知機能の低下に伴い自宅での介護が困難になった。自宅から近い特別養護老人ホームに入所生活中である。馴染みの関係ができて穏やかに毎日を過ごす日々が続いていたが、ある日、肩で呼吸しているところを発見される。風邪をこじらせていたことが判明するが治療により回復する。しかし、このことをきっかけに徐々に虚弱は進み最終的には穏やかに息を引き取る。施設での看取りを希望しており特に医療処置や延命は希望も必要性もなかった。家族関係は良好で最期には息子家族が泊まりがけで付き添った。鈴子さんが亡くなった後、法要が一段落したときに施設の手続きに遺族が訪問する。以上を状況設定とした。

（2）教育設計

学習対象者：介護保険施設職員（介護職、看護職、リハビリテーション職、医師、相談員）。
学習シチュエーション：個人学習および集団によるディスカッションによるグループ学習の両者に適応する。
学習ステップ：①平穏期のエンドオブライフケア、②緊急時のエンドオブライフケア、③虚弱時のエンドオブライフケア
④看取りディスカッションの意識と開催
⑤死の 2 週間前、⑥臨終時、⑦看取り後の 7 段階を設計し、基本ステップは①から⑦の順に学習を進めるとした。従って、この順にオートで映像が流れるように設計した。しかし、

学習意図に応じては、各パートから学習を開始できることが必要であり、各ステップは、独立させて編集している。つまり、メニュー画面から直接、学習したいステップへのアクセスができる構成に組み立てた。
学習案内：本 DVD を自己学習として利用できることを目的に、この教材の教育のねらい、学習の進め方を DVD に掲載した。また、各学習ステップにも学習のねらいを表示した。
学習促進：映像を見ながら学習を進行することができるように各学習ステップの映像が終了したときに DVD 視聴者への「問いかけ」を挿入した。個人学習では、自己学習となるが、集団によるグループ学習の時はディスカッションテーマとして進行できるように設計した。
汎用性：施設による看取り環境の違いを考慮し、決定的な正解を提示することはない設計にした。すべての問いかけは自身の施設でどのように行うかを考えることができる。
（3）作成映像
学習ステップ毎に＜チャプター＞と表記したテーマと映像を作成した。
チャプター1 は、「鈴子さんの日々の生活を考える」、チャプター2 は、「突然の異変に対応する」、チャプター3 は、「鈴子さんが死の危険からリカバリー出来た後のケアを考える」、チャプター4 は、「鈴子さんの看取りの方針をみんなで意識する」、チャプター5 は、「お別れが近づく」、チャプター6 は、「鈴子さんの旅立ちを見送る」、チャプター7 は、「ご家族へのグリーフケアを行う」とした。以下に一部を示す。



５．主な発表論文等
〔学会発表〕（計４件）
①原沢優子，島田千穂，伊東美緒：特別養護老人ホーム職員が関心を寄せる看取り時のケアーテキストマイニングによる頻出語の分析からー，第 36 回日本看護科学学会学術集会，東京国際フォーラム（東京都），12.10-11，2016.
②原沢優子，島田千穂，平山亮
特別養護老人ホームの看取りにおける血縁家族への固執と譲歩の様相，
日本家族社会学会第 26 回大会，早稲田大学戸山キャンパス（東京都），9.10-11，2016.
③Harasawa. Y, Sugimoto. H., Shinoda, M., Kamiyamasaki, E., Matsuda, M., Kondo, K. Related factors that visiting nurses’ use for evaluation of end-of-life care quality. Poster presented at the 10th International Association of Gerontology and Geriatrics－Asia/Oceania congress. October19-22, ChiangMai, Thailand, 2015.
④Yuko Harasawa, Kiyomi Yamada
MARITAL RELATIONSHIP AND CARING ATTITUDES OF AGED SPOUSAL CAREGIVERS.
Poster presented at the 20th International Association of Gerontology and Geriatrics －World congress of Gerontology and Geriatrics. June23-27, Seoul, Korea, 2013.

〔その他〕
ホームページ：
http://ncu-gero-nurs-lab.jp/lifecare.html

６．研究組織
(1)研究代表者
原沢優子（HARASAWA Yuko）
名古屋市立大学看護学部・准教授
研究者番号：70303774

(2)連携研究者
百瀬由美子（MOMOSE Yumiko）
愛知県立大学看護学部・教授
研究者番号：20262735

藤野あゆみ（FUJINO Ayumi）
愛知県立大学看護学部・講師
研究者番号：00433227

国井由生子（KUNII Yuko）
株式会社　ユピア
研究者番号：40582614

斉藤雅茂（SAITO Masashige）
日本福祉大学社会福祉学部・准教授
研究者番号：70548768

(3)研究協力者
安部　明子（Abe Akiko）

松本　卓也（Matsumoto Takuya）
岩崎　登（IWATA Noboru）
鈴木　はるか（SUZUKI Haruka）
斉藤　順（SAITO Jyun）
増本　竜馬(MASUMOTO Ryoma)
市原　博文(ICHIHARA Hirofumi)
中條　夏実(NAKAJYO Natsumi)
黒木　瞳子(KUROKI Hitomiko)
羽石　龍平(HANEISHI Ryohei)
吉田　岳男(YOSHIDA Takeo)
水野　皓太(MIZUNO Kota)
多田　浩志(TADA Hiroshi)
佐藤　友美(SATO Tomomi)
斉藤　宣紀(SAITO Noriyuki)
内田　直人(UCHIDA Naoto)
蓮池　桂子(HASUIKE Keiko)
後藤　龍馬(GOTO Ryoma)
森　恵美(MORI Emi)
倉田　奈純(KURATA Nasumi)
岡　義廣(OKA Yosihiro)
島　隆一(SHIMA Ryuichi)
イグロ　ヒデアキ(ISHIGURO Hideaki)
山下　ケイジ(YAMASHITA Keiji)
中田　陽子(NAKADA Yoko)
寺田　浩子(TERADA Hiroko)
糸数　昌視(ITOKAZU Masashi)
島田　千穂（SHIMADA Chiho）